第６８回

トラック運送業界の景況感（速報）

平成２１年１０月～１２月期

平成２１年１０～１２月期の国内景気をみると、自動車、鉄鋼、電気機械などの輸出関連産業を中心に改善が続いた。その一方で、ドバイ・ショックによる急激な円高や株安、企業での設備・雇用の過剰感などがあいまって、先行きへの慎重姿勢も強い。

トラック運送業界でも大手製造業の業況回復の影響から、輸送数量、営業収入、さらに営業利益の改善が進んだ。業界の景況感の判断指標は▲７７となり、前回から１７ポイント改善した（前回▲９４）。改善幅としては前回よりやや小幅となったが、３四半期連続の改善となっている。

ただし、平成２２年１～３月期の見通しについては、判断指標は▲７７と今回から変わらず、景況感の回復は踊り場を迎えると見込んでいる。

平成２２年２月１日

社団法人　全日本トラック協会

１．今回（平成２１年１０月～１２月期）の状況

(1)概況

平成２１年１０～１２月期におけるトラック運送業界の景況感は、「悪化」とした事業者は６６％（前回７１％）、「好転」とした事業者は７％（前回４％）で、判断指標は▲７７となり、前回から１７ポイント改善した（前回▲９４）。

貨物別では、宅配以外の特積貨物の改善幅が大きい。宅配貨物、一般貨物も、営業利益を中心に持ち直している。

(2)特別積合せ貨物

宅配貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が６３％、「増加」とする事業者が８％で、判断指標は▲７５となり、前回（▲９０）から１５ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が６３％、「増加」とする事業者が７％で、判断指標は▲７６となり、前回（▲９２）から１６ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が５１％、「増加」とする事業者が１４％で、判断指標は▲５２となり、前回（▲７８）から２６ポイント改善している。

宅配以外の特積貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が６７％、「増加」とする事業者が１０％で、判断指標は▲６９となり、前回（▲９０）から２１ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が６４％、「増加」とする事業者が１０％で、判断指標は▲６５となり、前回（▲９６）から３１ポイントの大幅改善となった。営業利益も大幅改善し、「減少」とする事業者が５１％、「増加」とする事業者が１５％で、判断指標は▲４３となった（前回▲７３から３０ポイント改善）。

(3)一般貨物

一般貨物では、輸送数量は「減少」とする事業者が６２％、「増加」とする事業者が１０％で、判断指標は▲６６と、前回（▲８８）から２２ポイント改善した。営業収入は「減少」とする事業者が６１％、「増加」とする事業者が１２％で、判断指標は▲６７となり、前回（▲８６）から１９ポイント改善した。営業利益は「減少」とする事業者が５６％、「増加」とする事業者が１３％で、判断指標は▲５６となり、前回（▲７４）から１８ポイント改善している。

(4)運賃水準

運賃水準は、宅配貨物は▲３６（前回▲４３）、宅配以外の特積貨物は▲３４（前回▲４３）、一般貨物は▲３４（前回▲３７）となっており、小幅ながら改善した。

(5)実働率等

実働率は▲４５（前回▲６７）、実車率は▲３８（前回▲６０）で、前回に続き改善した。

雇用状況は▲１８（前回▲２６）で、ほぼ人手の過不足はない状況となっている。採用は▲２８（前回▲３５）、所定外労働時間は▲３３（前回▲５５）で、ともに減少幅は縮小している。

保有車両台数は▲３２（前回▲３４）で、大きな変化はみられない。貨物の再委託（下請運送会社への委託）は▲５０（前回▲６１）に上昇し、減少幅は縮小した。

(6)地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、すべての地域で改善がみられた。特に中部、北陸信越では大幅な改善となった。ただし、水準としてはいまだ低く、特に中国は出遅れている。

事業者の規模別では、中規模事業者での改善幅が大きい。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物は大幅に改善した。

２．今後（平成２２年１月～３月期）の見通し

(1)概況

平成２２年１～３月期の見通しは、業界の景況感の判断指標は今回と変わらず▲７７で、改善傾向は足踏みの見込み。

(2)特別積合せ貨物

宅配貨物は、輸送数量、営業収入はやや改善するが、営業利益は水準を下げる見込み。

宅配以外の特積貨物は、 輸送数量、営業収入は改善するが、営業利益はやや水準を下げる見込み。

(3)一般貨物

一般貨物は、輸送数量、営業収入は改善するが、営業利益は大きな変化はない見込み。

(4)運賃水準

宅配貨物はやや水準を下げる見込み。宅配以外の特積み貨物、一般貨物は大きな変化はない見込み。

(5)実働率等

実働率、実車率とも大きな変化はない見込み。

雇用状況はやや人手過剰となる見込み。採用状況、所定外労働時間は大きな変化はない見込み。

保有車両台数、貨物の再委託（下請運送会社への委託）は減少幅がやや縮小する見込み。

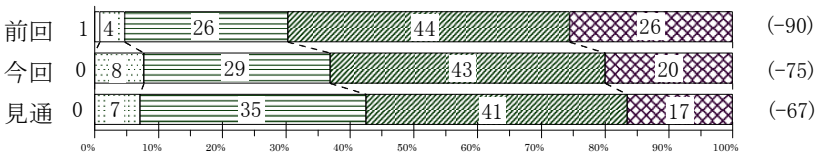
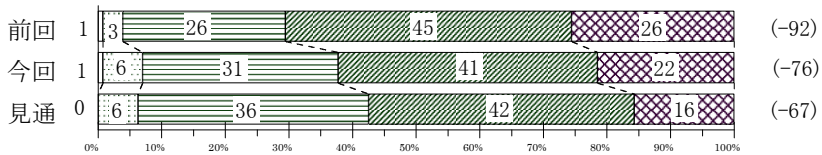
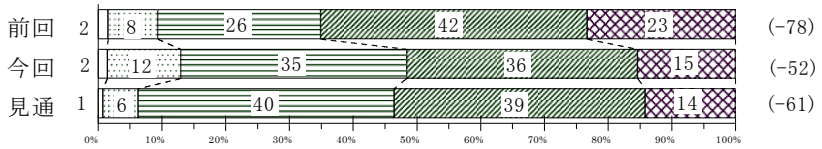
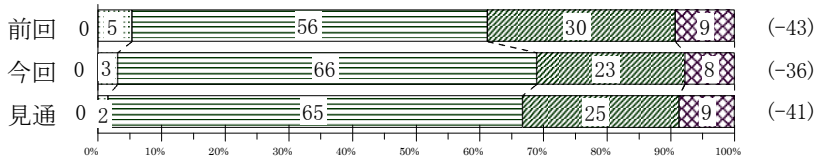
(6)地域別および取扱い品目別

業界の景況感を地域別にみると、ばらつきがあり、中部は改善を見込むが、東北、四国はやや水準を下げる見込み。

事業者の規模別では、小規模事業者はやや改善するが、中規模事業者はやや水準を下げる見込み。

主な取扱い品目別では、機械関連貨物は改善の見込み。建設関連貨物はやや水準を下げる見込み。

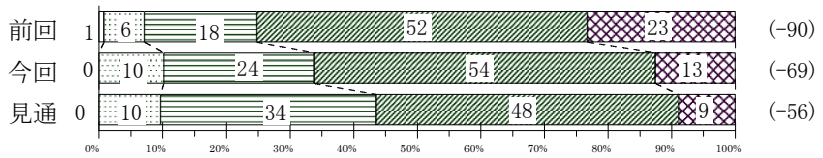
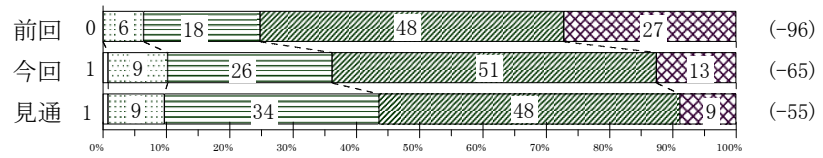
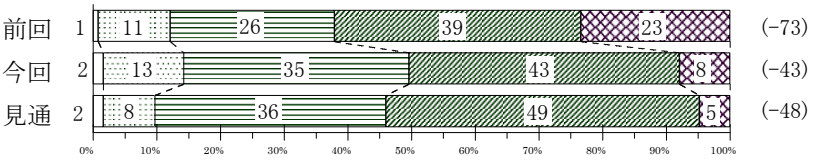
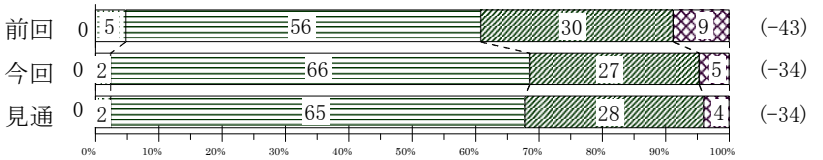
３．特積貨物の概況

項　目		概　況
宅配貨物	輸送数量	 ・前回より改善したが、減少が続く。地域別では、北陸信越、中部では大幅減少だが、中国では横ばい。 ・今後は今回よりやや改善するものの、水準としては減少が続く見込み。
	営業収入（売上高）	 ・前回より改善したが、減少が続く。地域別では、北陸信越では大幅減少だが、中国では横ばい。 ・今後は今回よりやや改善するものの、水準としては減少が続く見込み。
	営業利益	 ・前回より改善し、やや減少となった。地域別では、四国は横ばいとなっている。中部、九州は相対的に水準が低い。 ・今後は今回よりやや悪化し、再び減少となる見込み。
	運賃・料金の水準	 ・前回よりやや改善したが、やや下落が続いている。地域別では、北陸信越、北海道は横ばいとなっている。近畿、中国は相対的に水準が低い。 ・今後は今回よりやや悪化するが、水準としてはやや下落が続く見込み。

【調査の概要】

◆平成５年３月より開始、以降３カ月ごとに実施。
今回は平成２１年１２月３０日に配布。
平成２２年１月２７日到着分までを集計。
◆回収率：７０．０％

	特　積	一　般	合　計
調査対象	２５６	６４４	９００
回収数	１３３	４９７	６３０

項　　目		概　　況
宅配以外の特積貨物	輸送数量	 ・前回より改善したが、水準としては減少が続く。地域別では、東北、北陸信越、九州は大幅減少。一方、中国は横ばいであった。 ・今後は今回よりやや改善し、やや減少に転じる見込み。
	営業収入（売上高）	 ・前回より大きく改善したが、水準としては減少が続く。地域別では、東北、北陸信越、九州は大幅減少。一方、北海道、中国は横ばいであった。 ・今後は今回より改善して、やや減少に転じる見込み。
	営業利益	 ・前回より大きく改善し、やや減少に転じた。地域別では、中国は横ばい、九州、東北は減少であった。 ・今後は今回よりやや悪化するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。
	運賃・料金の水準	 ・前回より改善したが、水準としてはやや下落が続く。地域別では、北海道、四国は横ばいとなっている。 ・今後も今回と同様に、やや下落が続く見込み。

凡例

大幅に	増加・上昇・好転・人手不足	＋２点
や　や	増加・上昇・好転・人手不足	＋１点
横ばい		０点
や　や	減少・低下・悪化・人手過剰	－１点
大幅に	減少・低下・悪化・人手過	－２点

（注1）各グラフの上段は前回の状況、中段は今回の状況、下段は今後の見通しを示す。

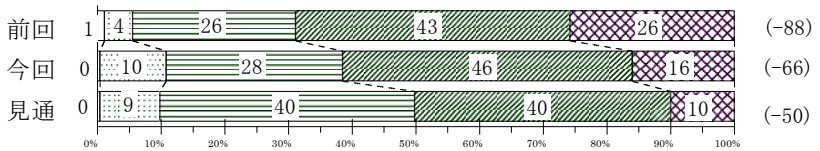
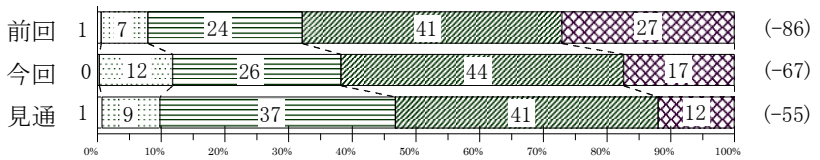
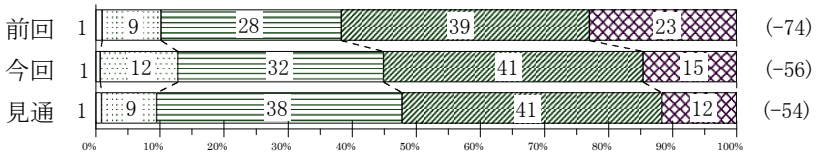
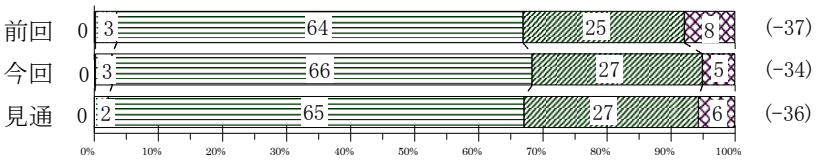
（注2）各グラフの構成比は四捨五入のため、合計が100にならない場合がある。

（注3）グラフ右のｶｯｺ内は業況判断指標。指標は､各設問の回答に対し、増加・好転+1～+2、横ばい0、減少・悪化-1～-2の点数を与え、１事業者当たりの平均を100倍することにより算出している。

Ａ（設問Ａの回答者数）＝$a_1+a_2+a_3+a_4+a_5$（設問Ａの選択肢１～５の回答数の和）

指標＝｛$(+2\times a_1)+(+1\times a_2)+(0\times a_3)+(-1\times a_4)+(-2\times a_5)$｝÷Ａ×100

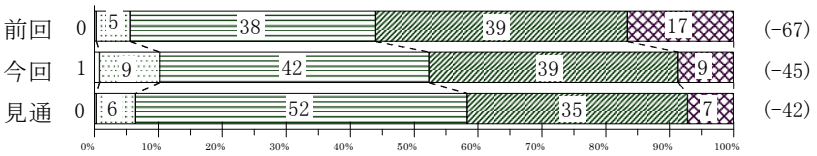
４．一般貨物の概況

項　　目	概　　況
輸送数量 （全　体）	
・前回から改善したが、水準としては減少が続く。地域別では、四国、北海道、関東はやや減少に留まる。中部、北陸信越、九州は相対的に水準が低い。品目別では、建設関連貨物はやや減少に留まる。 ・今後は今回より改善して、やや減少に転じる見込み。	
営業収入 （売上高）	
・前回から改善したが、水準としては減少が続く。地域別では、北海道、四国、関東はやや減少に留まる。北陸信越、東北、中部は相対的に水準が低い。 ・今後は今回より改善して、やや減少に転じる見込み。	
営業利益	
・前回より改善し、やや減少に転じた。地域別では、四国は横ばい。東北、九州、中部は相対的に水準が低い。規模別では小規模事業者ほど水準が低い。品目別では、機械関連貨物のみ減少であった。 ・今後も今回と同様に、やや減少が続く見込み。	
運賃・料金 の水準	
・前回と同様に、やや下落が続いている。地域別では、北海道のみ横ばいとなっている。 ・今後も今回と同様に、やや下落が続く見込み。	

５．共通の概況

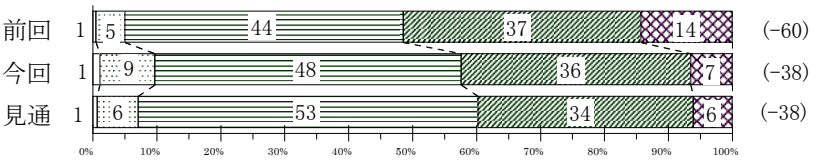
項　　目	概　　況

実　働　率



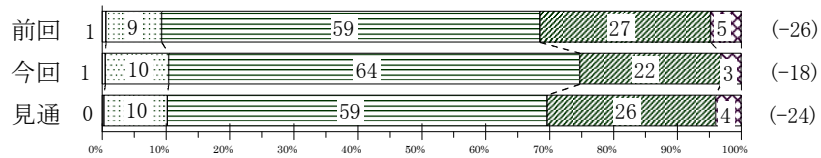
・前回より改善し、やや低下に転じた。地域別では、九州のみ低下となっている。
・今後も今回と同様に、やや低下が続く見込み。

実　車　率



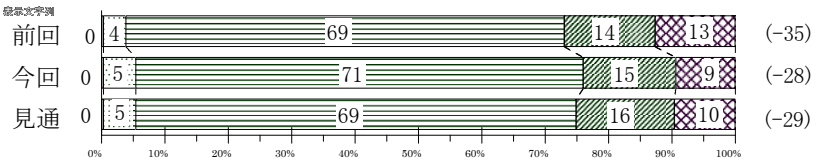
・前回より改善した、やや低下に転じた。地域別では、北海道のみ横ばい、九州は相対的に水準が低い。
・今後も今回と同様に、やや低下が続く見込み。

雇用状況（人手の過不足）



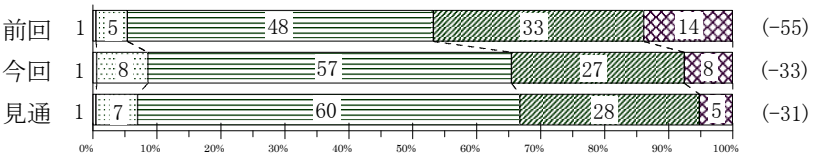
・人手の過不足感はない。地域別では北陸信越、中部、東北、近畿、中国、規模別では中規模事業者、品目別では機械関連貨物、その他貨物はやや人手過剰感がある。
・今後は今回よりやや悪化して、再びやや人手過剰となる見込み。

採用状況

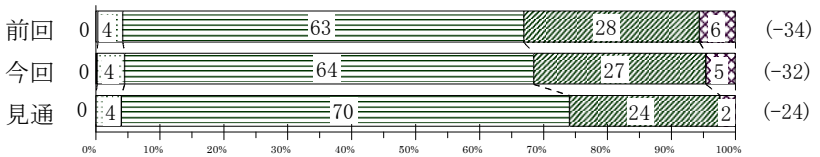


・前回よりやや改善したが、やや減少が続く。地域別では北海道、品目別では建設関連貨物で横ばいとなっている。
・今後も今回と同様に、やや減少が続く見込み。

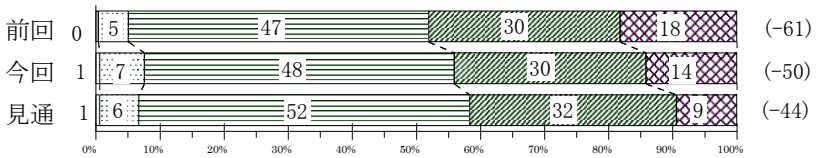
所定外労働時間



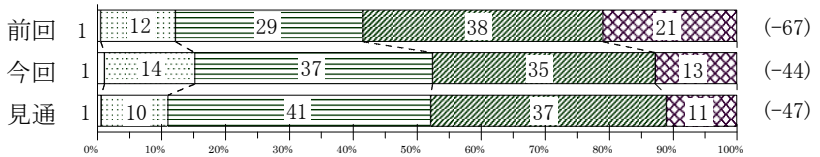
・前回から改善したが、水準としてはやや減少が続く。地域別では北海道、四国、品目別では建設関連貨物で横ばいとなっている。
・今後も今回と同様に、やや減少が続く見込み。

項　　目	
保有車両台数	

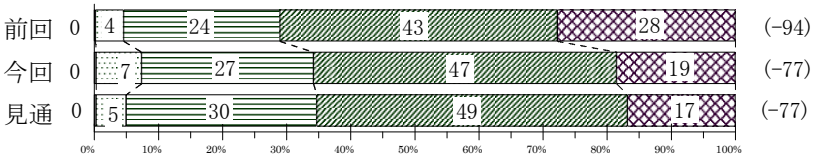
・前回と同様にやや減少が続く。地域別では、四国のみ横ばいとなっている。
・今後は今回よりやや改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。

貨物の再委託	

・前回より改善し、やや減少に転じた。地域別では中部、品目別では機械関連貨物で減少となっている。
・今後は今回よりやや改善するものの、水準としてはやや減少が続く見込み。

経常損益	

・前回より改善し、やや悪化に転じた。地域別では、四国、北海道は横ばい。一方、九州は悪化となっている。規模別では、大規模事業者は横ばいとなっている。
・今後も今回と同様に、やや悪化が続く見込み。

業界の景況感	

・前回から改善したが、水準としては悪化が続く。地域別では、北海道、四国はやや悪化に留まる。中国は相対的に水準が低い。
・今後も今回と同様に、悪化が続く見込み。

６．事業者特性別の特徴

事業者特性	特　　徴
①　**地域（注4）**	・北海道は、全国順位１位を継続し、景況感はやや改善。 ・東北は、全国順位３位から５位に下がったが、景況感はやや改善。 ・北陸信越は、全国順位７位から６位に上がり、景況感は大幅改善。 ・関東は、全国順位５位から３位に上がり、景況感は改善。 ・中部は、全国順位９位から７位に上がり、景況感は大幅改善。 ・近畿は、全国順位４位が続くが、景況感は改善。 ・中国は、全国順位８位から９位に下がったが、景況感は改善。 ・四国は、全国順位２位を継続し、景況感は改善。 ・九州は、全国順位６位から８位に下がったが、景況感はやや改善。 ◆「業界の景況感」の業況判断指標の地方ブロック別順位◆ Ｈ２１年 ７～９月期 → Ｈ２１年 10～12月 → Ｈ２２年 １～３月期見通し １位　北海道 → 北海道 → 北海道 ２位　**四　国** → 四　国 → **四　国** ３位　**東　北** → **関　東** → **中　部** ４位　**近　畿** → **近　畿** → **北陸信越** ５位　**関　東** → **東　北** → **関　東** ６位　**九　州** → **北陸信越** → **近　畿** ７位　**北陸信越** → **中　部** → **九　州** ８位　**中　国** → **九　州** → **中　国** ９位　**中　部** → **中　国** → **東　北** 文字の凡例 標準文字：やや悪化 **ゴシック**：悪化 **反転文字**：強い悪化
②　**規模（注5）**	・業界の景況感は、小規模事業者ほど水準が低い。前回と比べると中規模事業者の持ち直し幅が大きい。
③　**品目（注6）**	・消費関連貨物は悪化であり、前回からの改善幅が相対的に小さい。一般貨物の輸送数量では、特種品、日用品などでは改善がみられた。今後はわずかに水準を下げる見込み。 ・建設関連貨物は悪化だが、品目別では最も良い。一般貨物の輸送数量では、金属製品、林産品などで大きな改善がみられた。今後はやや水準を下げる見込み。 ・機械関連貨物は悪化だが、前回と比べると大幅に改善している。一般貨物の輸送数量では、輸送機械、その他機械の改善幅が著しい。今後も水準を上げる見込み。 ・その他貨物は前回から水準を上げたものの、品目別では最も悪い。一般貨物の輸送数量では、その他化学工業品、化学薬品などは大きく改善したが、石油製品は水準を下げた。今後はわずかに水準を上げる見込み。

（注4）地域分類は地方運輸局管轄地域区分に基づく。
（注5）規模別分類
　　大規模事業者：101両以上　中規模事業者：21両以上100両以下　小規模事業者：20両以下
（注6）品目別分類
　　消費関連貨物：農水産品、食料工業品、日用品など
　　建設関連貨物：林産品、砂利、砂、石材、建設用資材、窯業品（セメント等）など
　　機械関連貨物：電気機械（家電含む）、輸送機械（自動車等）など
　　そ の 他貨物：石炭、原油、金属、石油、化学、紙・パルプなど

7．景況感一覧表

		特積貨物						一般貨物			雇用関連			総合計		
		宅配貨物			宅配以外の特積貨物											
全　体		⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
地域	北海道	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘	↘	→	→	↘	↘	↘	↘
	東北	⇩	↘	↘	⇩	⇩	⇩	⇩	⇩	⇩	↘	↘	↘	⇩	↘	⇩
	北陸信越	⇩	⇩	⇩	⇩	⇩	↘	⇩	⇩	↘	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘
	関東	⇩	⇩	⇩	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
	中部	⇩	⇩	⇩	⬇	↘	↘	⬇	⇩	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
	近畿	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
	中国	⇩	↘	↘	⇩	→	↘	⇩	⇩	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
	四国	↘	→	→	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	→	↘	↘	↘	↘
	九州	⇩	⇩	⇩	↘	⇩	⇩	⇩	⇩	⇩	↘	↘	↘	↘	⇩	⇩
事業者規模	小規模事業者	⇩	↘	↘	⬇	⇩	⇩	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
	中規模事業者	⇩	⇩	⇩	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
	大規模事業者	⇩	⇩	↘	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘
取り扱い品目	消費関連貨物	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘	↘
	建設関連貨物	⇩	⇩	↘	⇩	⇩	⇩	⇩	↘	↘	↘	→	↘	⇩	↘	↘
	機械関連貨物	↘	⇩	⇩	⬇	⇩	⇩	⇩	⇩	↘	⇩	↘	↘	⇩	⇩	↘
	その他貨物	⇩	↘	⇩	↘	↘	↘	⇩	↘	↘	↘	↘	↘	⇩	↘	↘

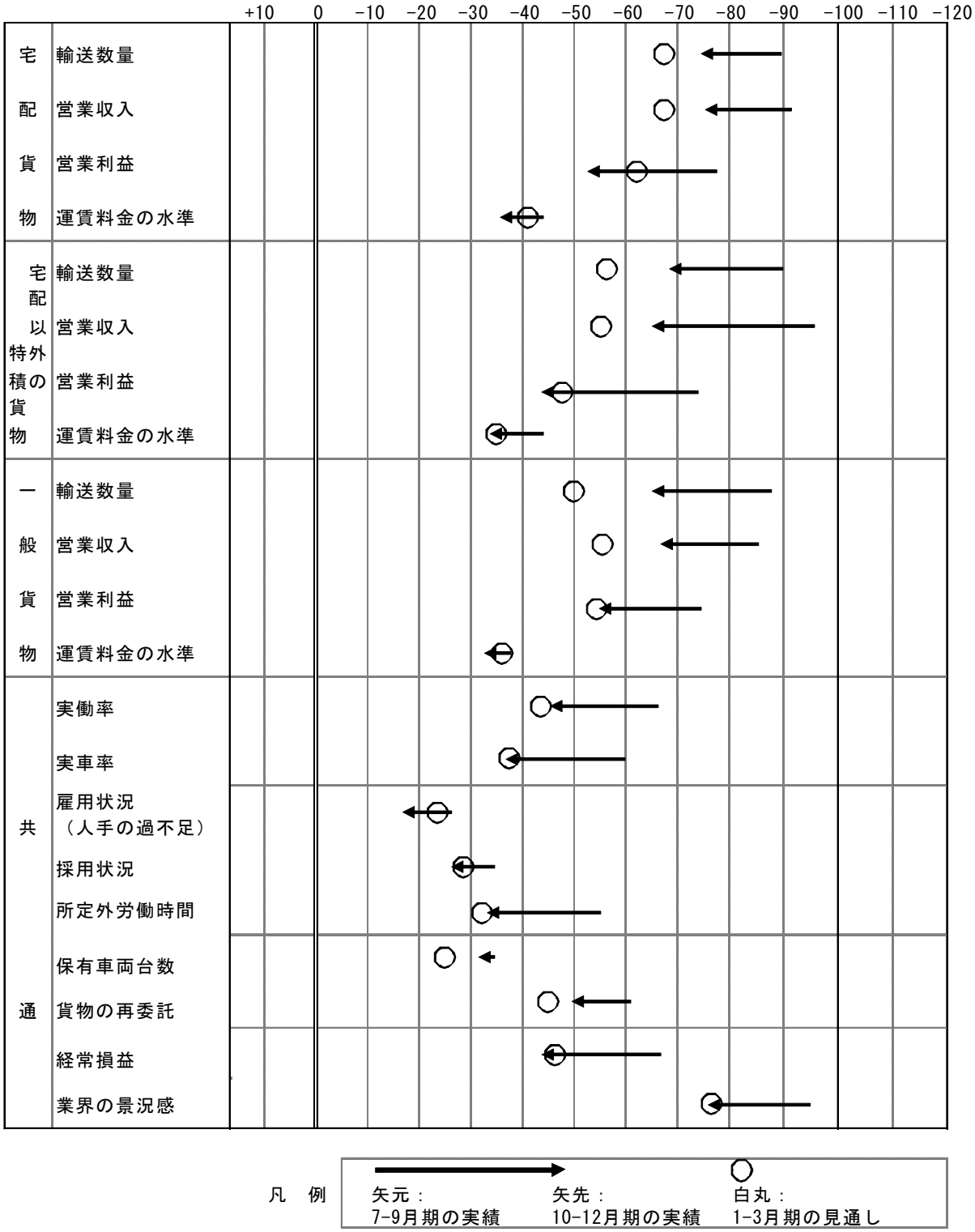
（注7）各項目は、関連する判断指標（前年同期に対する水準）から平均値を算出。
貨物別については、輸送数量、営業収入、営業利益、運賃水準の平均値で判断。

凡例 ・各欄は、左：前回（7-9月）　中央：今回（10-12月）　右：見通し（1-3月）

・矢印と判断指標の対応

判断指標	･･･ -100	･･･ -60	･･･ -20	･･･ +20	･･･ +60	･･･ +100	･･･
矢　印	⬇	⇩	↘	→	↗	⇧	⇧

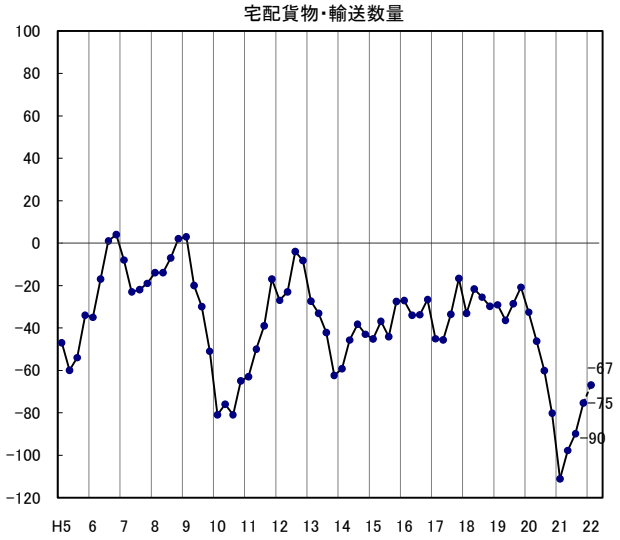
８．業況判断指標の前回調査（平成２１年７月～９月期）からの変化



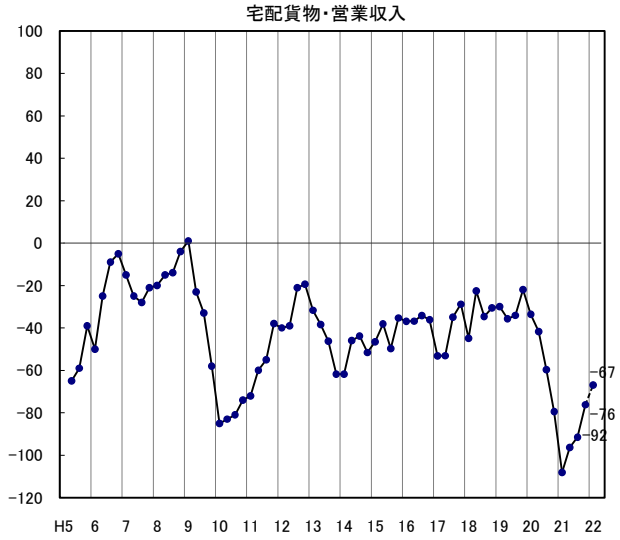
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成21年第4四半期実績、平成22年第1四半期見通し

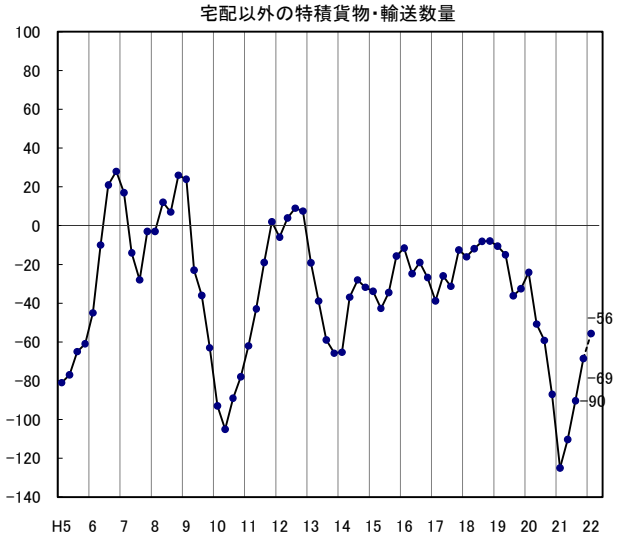
宅配貨物・輸送数量



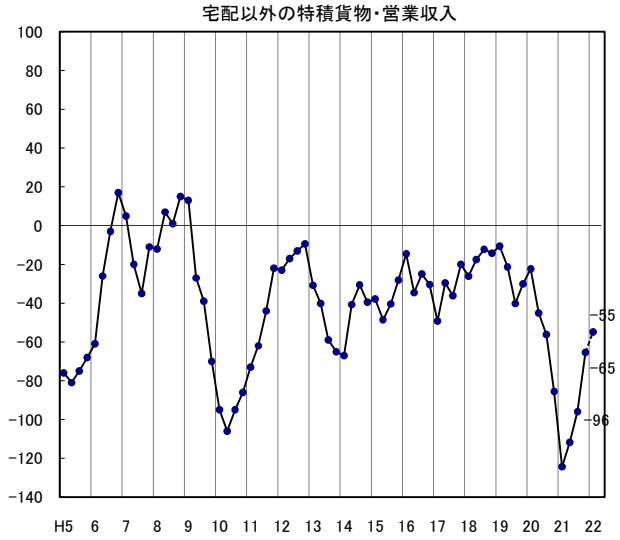
宅配貨物・営業収入



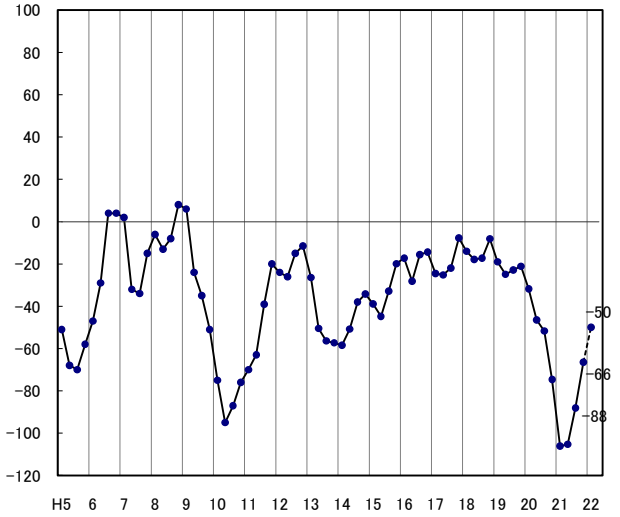
宅配以外の特積貨物・輸送数量



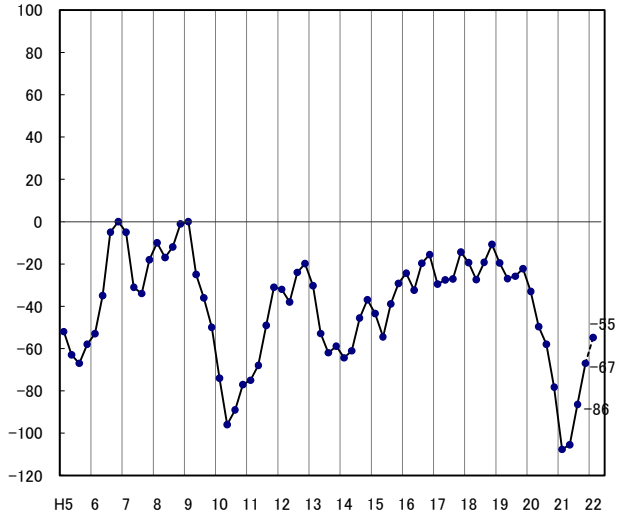
宅配以外の特積貨物・営業収入



一般貨物・輸送数量



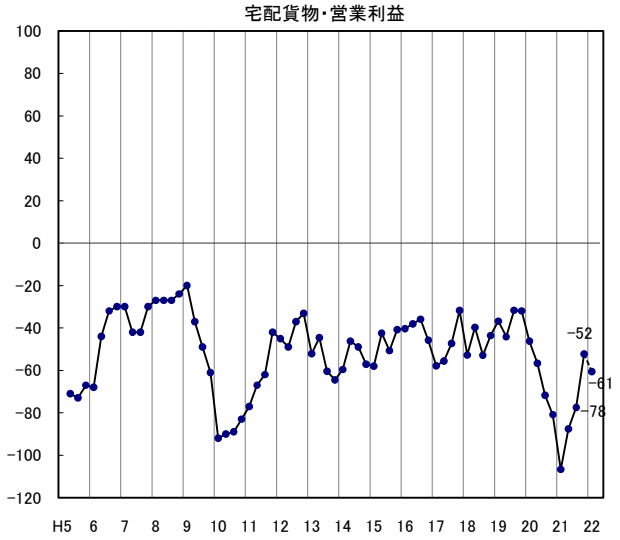
一般貨物・営業収入



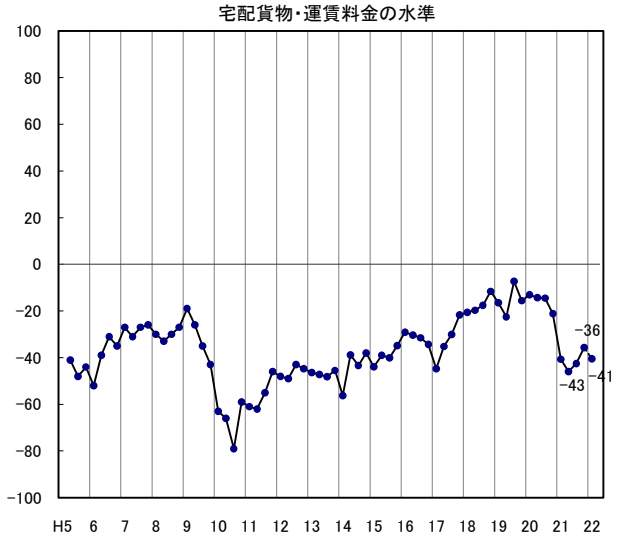
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成21年第4四半期実績、平成22年第1四半期見通し

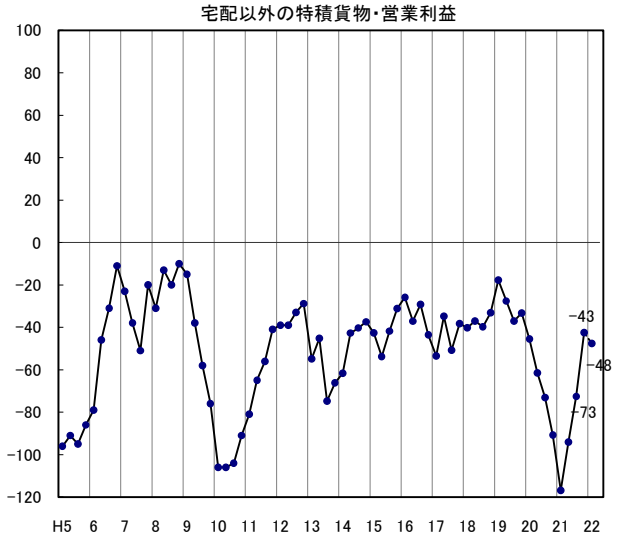
宅配貨物・営業利益



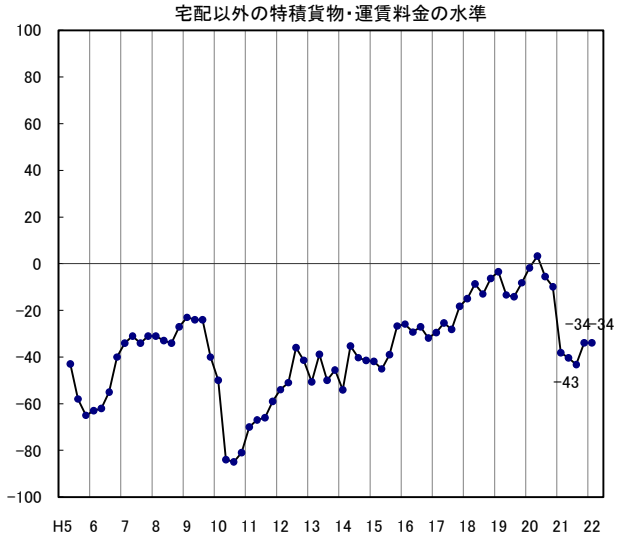
宅配貨物・運賃料金の水準



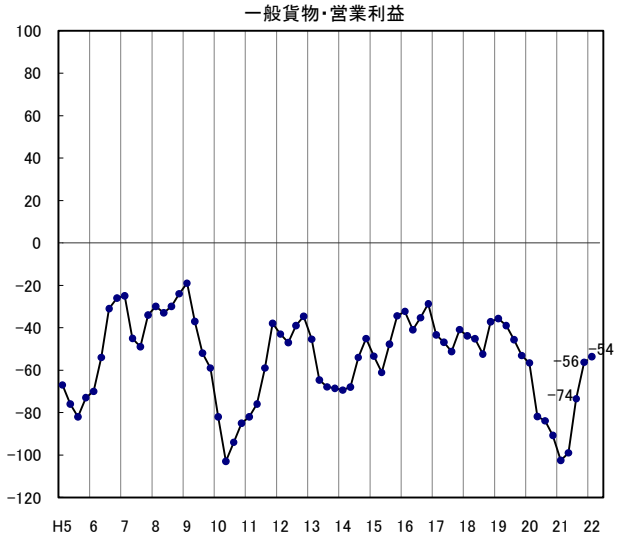
宅配以外の特積貨物・営業利益



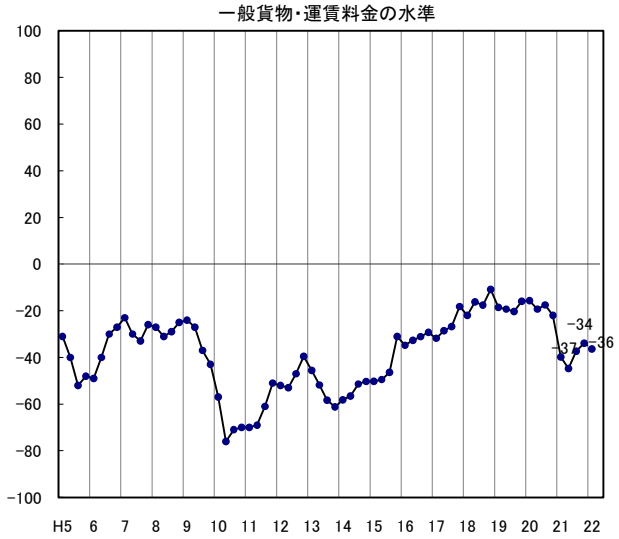
宅配以外の特積貨物・運賃料金の水準



一般貨物・営業利益

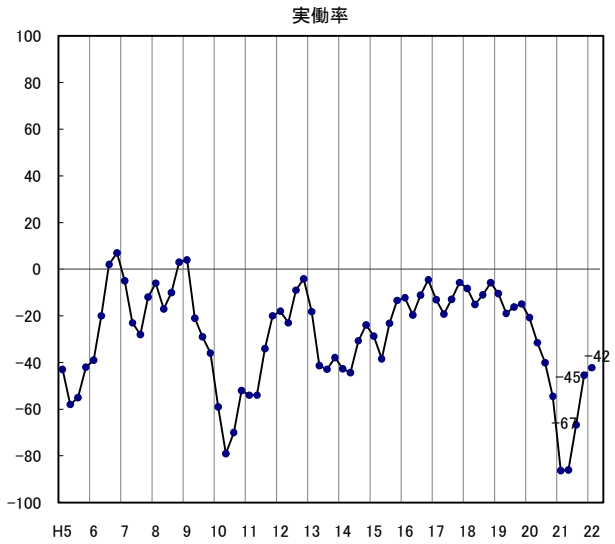


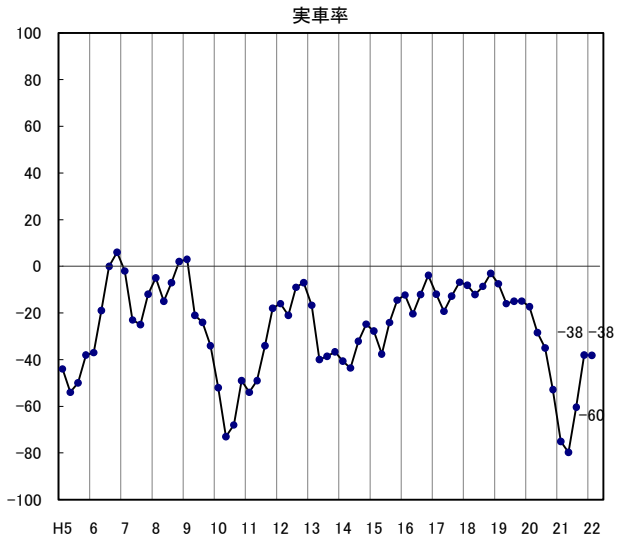
一般貨物・運賃料金の水準

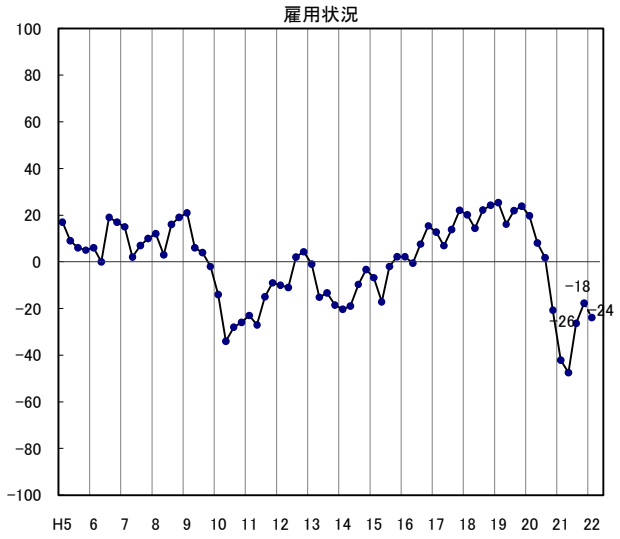


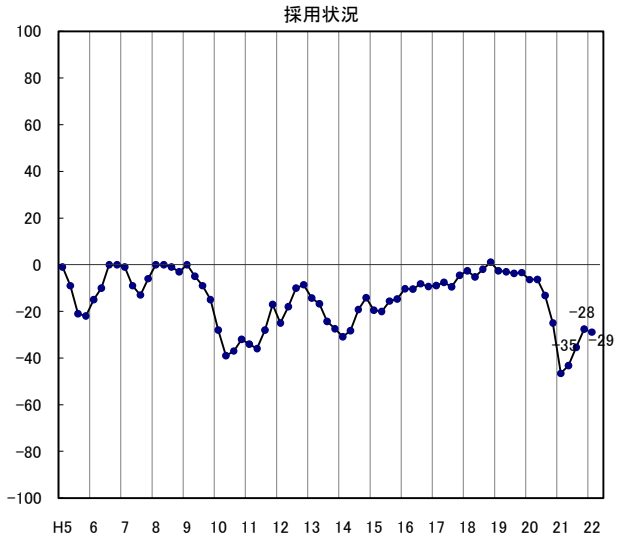
業 況 判 断 指 標 の 推 移

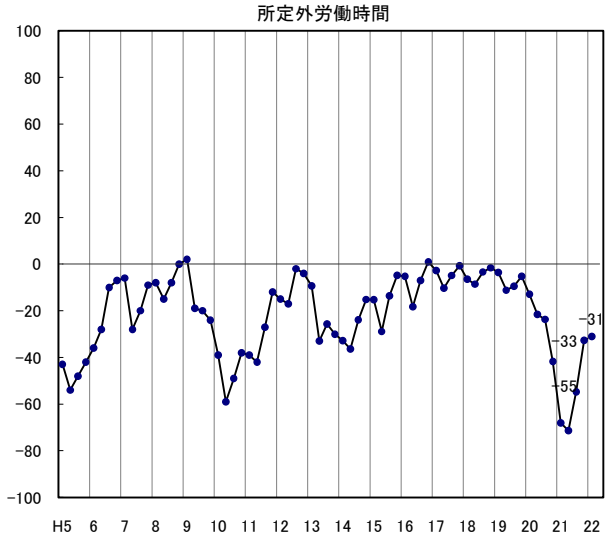
平成5年第1四半期～平成21年第4四半期実績、平成22年第1四半期見通し





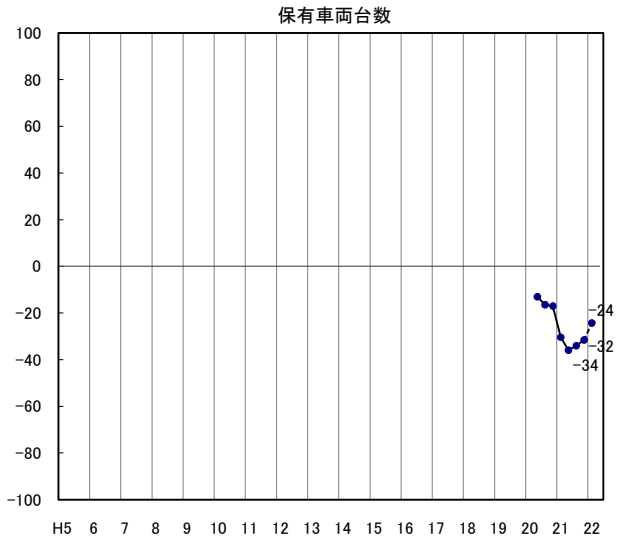


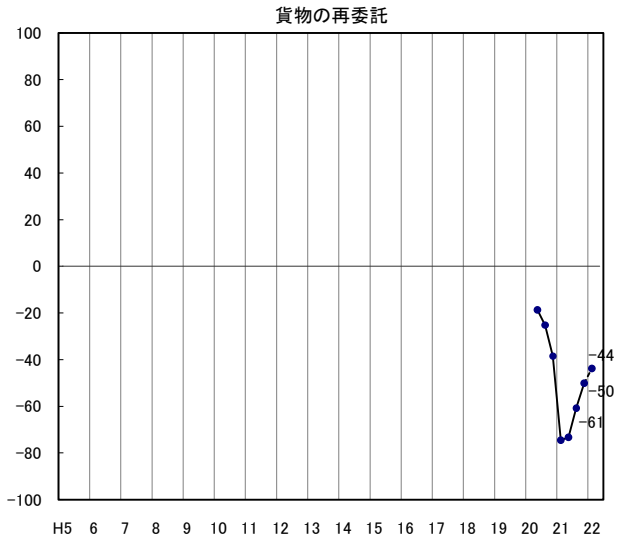


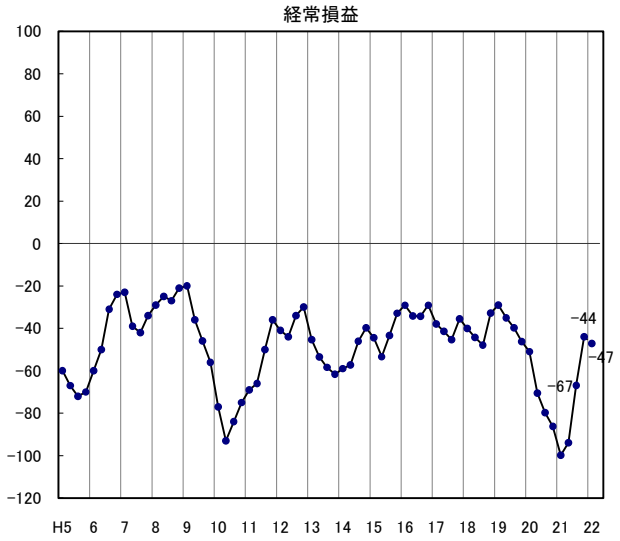


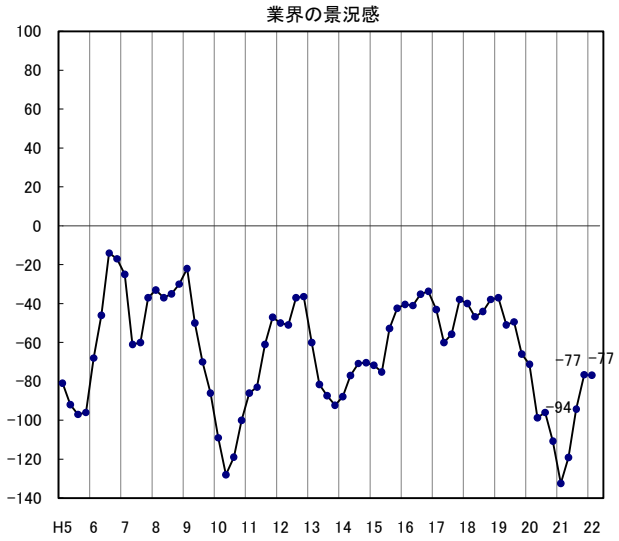
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成21年第4四半期実績、平成22年第1四半期見通し





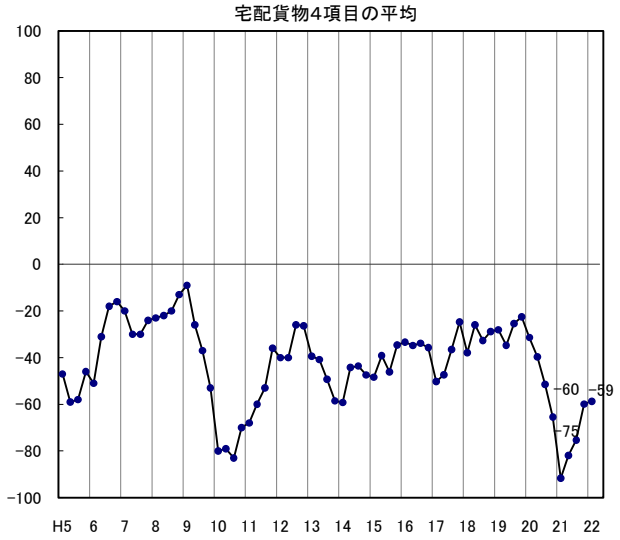




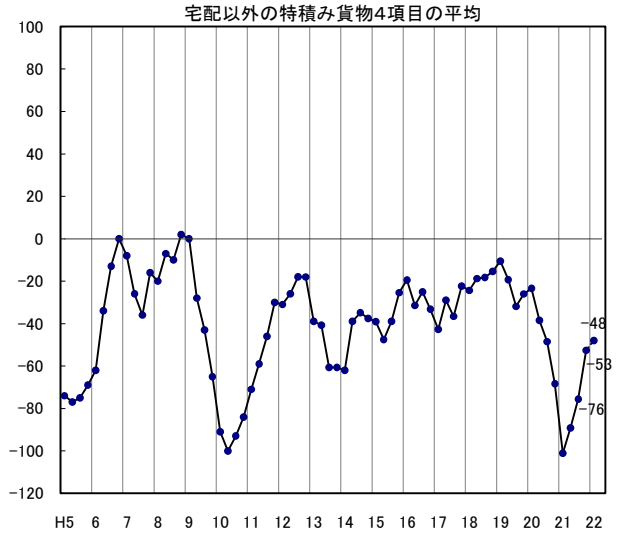
業 況 判 断 指 標 の 推 移

平成5年第1四半期～平成21年第4四半期実績、平成22年第1四半期見通し

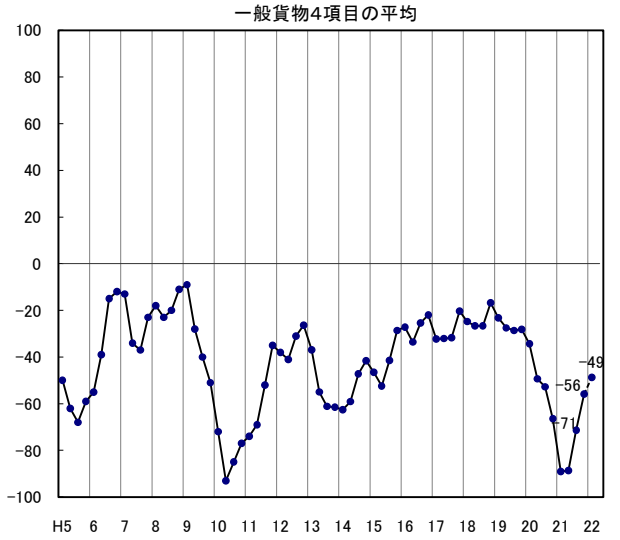
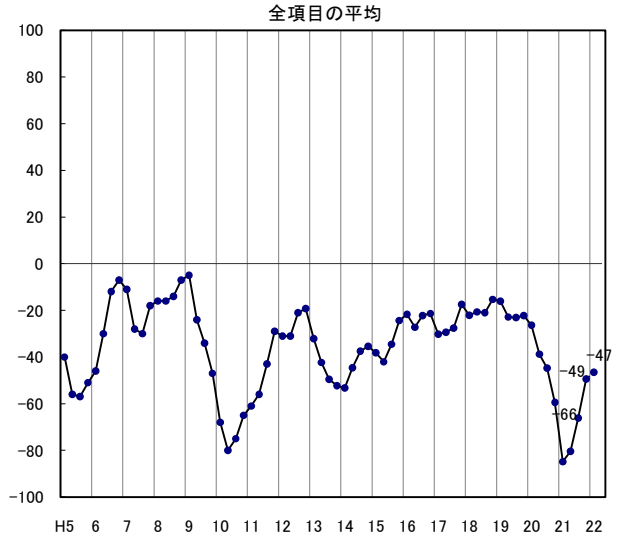
宅配貨物4項目の平均



宅配以外の特積み貨物4項目の平均



一般貨物4項目の平均



全項目の平均